



むかい

学校教育目標

- ・かしこく
- ・やさしく
- ・たくましく
- ・なかよく

心をつなぎ、学びを広げる

校長

朝夕の風に秋の気配を感じる季節となりました。2学期が始まって1か月が過ぎ、子どもたちは日々の授業や行事に取り組む中で、大きな成長を見せています。9月には5年生が自然の教室に参加しました。普段の学校生活とは異なる自然の中での活動を通じて、友達と協力する大切さを体感し、一人ひとりが役割を果たそうと努力する姿がありました。仲間と共に過ごした時間が、今後の学校生活や人間関係に生きる大切な学びとなったことと思います。

10月は、いよいよ運動会を迎えます。練習を重ねる中で、子どもたちは「勝ちたい」という気持ちだけでなく、仲間と心を合わせてやりきることの価値を実感しています。徒競走や団体競技、表現活動など、一つひとつの場面で互いを励まし合い、諦めずに挑戦する姿は、まさに成長の証です。当日は、子どもたちの様子をご覧いただき、温かい拍手で応援していただければと思います。

さて、8・9月は「いじめ撲滅重点期間」でした。これからも、特別の教科である道徳や学級活動を通して、いじめのない学級や学校を目指し、互いに尊重し合う関係を築いていきます。ご家庭でもぜひ、普段の言葉づかいや人との関わり方についてお子さんと話し合う時間をもっていたいただければ幸いです。

先日、YouTube 動画「松下幸之助に学ぶ人間関係」を見ていました。氏は「人間関係が人生を左右する」と語っています。良い人間関係は心を豊かにし、人生を幸せに導きますが、悪い人間関係は人を疲れさせ、運まで遠ざけてしまいます。そして、人の本質は学歴や肩書きではなく、日常の言葉づかいに表れると説きました。縁を切るべき「7つの言葉」として、「運がない」「ありがとうが言えない」「でも・無理じゃない」「俺は悪くない」「あいつは使えない」「してあげたのに」といった言葉を挙げています。これらは責任を回避し、挑戦を妨げ、信頼を損なう言葉だそうです。人間関係を築くうえで避けるべき言葉であると、私たち大人に強く訴えかけてきます。

では、良い人間関係を築くにはどうすればよいのでしょうか。松下氏は「まず自分自身を見つめることが大切」と述べています。心を整え、感謝の気持ちを持ち、肯定し合える関係を築くことで、相手の本質を正しく理解できるようになります。「ありがとう」「やってみよう」「大丈夫だよ」といった前向きな言葉は、人を励まし、信頼と絆を深める力をもっています。

運動会や修学旅行、日々の学校生活を通して、子どもたちが「言葉の力」を大切にし、仲間と感謝し合い、信頼できる関係を築いていくことを願っています。ご家庭や地域でも、その成長を温かく見守り、支えていただければ幸いです。